

令和5年度 授業改善推進プラン<国語科>

大田区立大森第十中学校

○国語科における令和4年度授業改善プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・ 成果
 - ①第1・第3学年は、全体・基礎・活用の正答率が全て目標値を上回った。第2学年は基礎のみ同程度であったが、全体と活用は目標値を上回った。観点別正答率、領域別正答率、問題の解答形式別正答率は全ての学年で目標値を上回った。
 - ②第2学年では「話すこと・聞くこと」が、目標値を12%程度上回った。聞き取りテストの活用や、授業内で自分の意見や考えを交流する場面の設定、キーワードや5W1Hを意識して話を聞き取ることの指導に取り組んだ成果が現れている。
 - ③第3学年では「書くこと」が目標値を7%上回り、全国平均正答率も5%上回った。文章中の表現を根拠に答えを導き、それをふまえて意見を発表したり、記述したりすることを意識的に授業に取り入れた成果が現れている。
- ・ 課題
 - ①第2学年の内容別正答率では、基礎の正答率が目標値を4.3%上回るに留まった。また、観点別では、知識・技能が目標値を1.3%上回るに留まった。今後は、意味調べ等を通して文章中で使われている言葉の意味を正確に捉えさせたり、漢字の反復練習や文法の基礎的な事項の復習をしたりする必要がある。
 - ②第1学年の領域別正答率では「我が国の言語文化に関する事項」のみ、目標値を1.3%しか上回っていなかった。漢字や四字熟語、ことわざを中心とした小テストの実施や、辞書による意味調べを行うなど、語彙力をさらに増やす授業を実施する必要がある。

○国語における大田区学習効果測定の結果分析

達成率（経年比較）△目標値を上回る ≡目標値と同程度である ▼目標値を下回る

	令和五年度結果	令和四年度結果	令和三年度結果
第1学年	全体 △ 基礎 △ 活用 △	/	
第2学年	全体 △ 基礎 ≡ 活用 △	全体 △ 基礎 △ 活用 △	/
第3学年	全体 △ 基礎 △ 活用 △	全体 △ 基礎 △ 活用 △	全体 △ 基礎 △ 活用 △

内容別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1・第3学年では、全体・基礎・活用の正答率が全て目標値を上回った。 ・ 第2学年では、基礎の正答率が目標値と同程度。全体と活用の正答率は目標値を上回った。 ・ 第2、第3学年の結果から、前年度の授業改善策とその実践に一定の効果があつたと考えられる。
観点別結果の分析	<p>【第1学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の全ての観点で正答率が目標値及び全国平均正答率を上回った。「思考・判断・表現」に関しては、目標値を10%以上上回った。 <p>【第2学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「知識・技能」の正答率が目標値を上回った。「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の正答率は目標値及び全国平均正答率を上回った。特に「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、目標値を10%以上上回った。 <p>【第3学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の全ての観点で正答率が目標値及び全国平均正答率を上回った。

○調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 主体的に学習に取り組む態度を育む。
- 2 言語に関する指導を充実させ、語彙を増やす。
- 3 自分の考えを分かりやすく伝えたり、内容を正確に聞き取ったりする力を高める。
- 4 文章から内容を正確に読み取る力と、自分の考えを文章にして表現する力を高める。

○国語科の授業改善策

- 1 主体的に学習に取り組む態度を育むために。
授業においては、生徒が「分かった」という達成感や自己肯定感をもてるように指導の工夫や改善を継続する。また、百人一首大会などの行事と学習を関連させ、意欲を高める。
- 2 言語に関する指導を充実させ、語彙を増やすために。

第1学年
单元ごとに意味調べを行う。また、漢字だけではなく、四字熟語やことわざに関する小テストを定期的に行う。

第2学年
意味調べ等を通して文章中で使われている言葉の意味を正確に捉えさせる。また、漢字の反復練習や文法の基礎的な事項を復習する。

第3学年
新出漢字を状況にあった適切な形で用いる力を身に付けるほかに語彙力をさらに伸ばすために、授業において意味調べや常用漢字の定着、及び四字熟語・類義語・対義語などの知識習得に取り組む。
- 3 自分の考えを分かりやすく伝えたり、内容を正確に聞き取ったりする力を高めるために。

第1学年
授業内で意図的・計画的に自分の意見や考えを交流する場を設定する。また、聞き取りテストを活用し、キーワードや5W1Hを意識して聞き取る習慣を定着させる。

第2学年
他の生徒の発言と自分の意見を比較しながら聞く習慣を身に付けさせる。また、根拠を明確に示して自分の意見を発表することを意識させる。

第3学年
授業において、他者と自己の考えを比べながら発表を聞いたり、意見を交流する中で考えを深めたりする場を増やす。また、実体験などの主観的な根拠だけでなく客観的な資料や数値を根拠に挙げながら、相手が納得するような話し方の構成を意識して話すことを意識させる。
- 4 文章から内容を正確に読み取る力と、自分の考えを文章にして表現する力を高めるために。

第1学年
読書を推奨し、様々な文章に触れることで読解力の向上を図る。また、自分の意見を書く際は、本文の表現を引用したり登場人物と自分の実体験を比較したりして書くなど、根拠を明確に示すように意識させる。

第2学年
書き手のものの見方や考え方がどのように表されているかなどを正確に読み取り、それについて根拠を示して自分の意見を書かせる。

第3学年
書き手のものの見方や考え方と自分のものの見方や考え方を比較することで、自分の考えを深めさせる。また、客観的な資料等を活用して根拠を示し、説得力のある言葉で明確に表現させる。